

新編水滸畫傳

六編

貳



門へ選21
875
巻 52

神書佛書鬚書國學
繪本手不新古賣買
手遊いふく清房の間
河内文了了はわいりよ

後醍醐三休橋西入
河内屋孫玄術

新編水滸 畫傳卷之五拾貳

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年
七月十日
購

百廿三

○冷茶と放て、燕まままと救ふ
諸も盧俊義の梁山泊と離れて、夜と日小継まゝ一日わくは水糸城
介小むりりるに天色已に映て城内入るるを夜は先縁布と借る
翌日盧俊義早天不出て城内入るるを夜は先縁布と借る
つらん罪をいしやふれ、宛艱難の光景に漢子溺おをさ。盧俊義を
次中破陣衣裳藍縷宛艱難の光景に漢子溺おをさ。盧俊義を
一目見て、忽ち地上に跪きしむ。盧俊義唯なるを、是ををれ、是別ち
浪子燕まま。盧俊義怪て問る、汝何れかや。て、以迎不徘徊す。や
燕まま云、汝一人の性来驚く、況活まらぬにわ、且隣にあり
かへて、遂小引て人なき処小入り、別告て云、乃の相公奈是、一ひて後

新編水滸畫傳卷之五十二

李固も回て夫人小首で巾着ハ。相公ハ梁山泊小由取しあひて。宋江
が次等二位の座小坐せ定め。期款しつるものあり。李固と夫人と
檀小私情と通して不義なる。先達て相公の罪と友府（松へり）に
宋江と交りし一被大不怒て宋と追出。仍艱強と慕し。し宋江
城中小者せ赤んと欲し。乃李固に標担らるて。在と借し。徒ら
只此辺小徘徊し。乞食するに。相公再び梁山泊小由りあひて。別小
商議をたし。又宋城中小居なり。必定禍と為り。乃一と。海と合ふが
乃。盧俊義も敢て。反て燕妻ととり。我妻ハ宋江賢を。我らして。
不義と云ふ。乃宋江の汝かく云ハ必定私の怨むらん。燕妻が云。相
公ハ考に氣力と熱あひて。女を以親し。うづらぬ。夫人老早に。是を
疑び。乃宋江と。宋江李固と私情と通して。ゆいて。只相公の眼目との。誹き

あひたり。今日使機小奪して。李固と夫人と。夫婦に。あひて。
夫。相公と害せんと。為らん。相公も。甲する。必此被ホ毒。多に。遇
わべ。只宜し。これと。宋江。乃。梁山泊小由り。又。盧俊義大不
怒て云。我家又六代。お續て。小系小住し。唯。我事と。知らん。李
固。い。く。首の。あひて。移る。不義と。おさんや。是。必ず。汝が。身の上。に
不義の。を。忍れて。却て。我と。親く。らん。と。眼と。怒り。し。罵り。し。夫。
燕妻と。を。啖て。流し。相公も。云と。疑ひ。あひて。禍と。被り。あひ
なして。乃。宋江。に。さ。り。らん。盧俊義。これと。踢倒して。遂に。家。に
回し。乃。家人。才。是と。見。大不。怒。し。下。小。李。固。恭し。く。迎て。後堂
に。入り。忽ち。月。を。翻。して。物と。を。ぬ。盧俊義。が。云。燕妻ハ。お。不。を。や。
李。固。答て。云。燕妻。が。一。朝。一夕。の。云。小。君。し。は。先。替。く。休。息。と。云。し。



官人盧俊義を
生捉小向人

新編水滸畫傳卷之五十二

盧

寔直

寔直



燕青
主人公を
諫む

新編水滸畫傳卷之五十二

三

之企る時九族滅すといふ。我見せ忍れて欲しめ。友府弘ひて。
 俱て我を恨まふ。情あり。云られば。盧俊義大不怒り。悔りれせ。
 更小益をなうり。妻と李赤又呼て云らる。員介今更悔む。
 其甲斐多う。速に白状して。拷問を免れ。未だ云も。路を
 ざる。張孔目の李赤が。絡絡と。巧し。云らば。北しく。出。梁中
 書に。若て云。彼反賊。痛く。拷問し。白状せんや。速
 に。おしめ。交と。殊め。梁中書を。云ふ。曰く。初ち。右の
 下。友。小。命。おしめ。下。友。命。と。なり。盧俊義と。扯。倒
 して。殺ぐ。に。お。ら。れ。ば。皮。肉。綻。び。て。鮮。血。滾。々。と。流。れ。ぬ。盧
 俊義。天。と。作。て。歎。ぐ。我。は。是。横。死。を。受。ふ。運。命。あ。て。ど。あ
 ら。ん。小。曲。て。白。状。せ。む。と。思。ひ。我。の。て。梁。山。泊。小。五。回。い。と。白。状

され。張孔目。白状の。次第。一紙。に。写し。所。時。に。頭。枷。と。枷。て。牢。中
 小。を。ら。る。に。街。の。人。々。盧。俊。義。を。見。て。憐。れ。む。と。思。ふ。り。り。盧。員。介
 已。に。牢。中。に。お。り。に。彼。友。院。押。牢。第。級。盧。俊。義。と。下。目。ら。る。
 汝。の。我。を。激。怒。さ。す。と。同。れ。ぬ。盧。俊。義。は。只。次。と。低。て。更。に。怒。を
 も。作。さ。り。り。に。友。院。押。牢。第。級。の。劊。子。の。職。を。兼。ら。る。が。對。し。蔡。名。の
 福。と。号。し。て。名。譽。の。遠。人。た。り。に。より。彈。名。を。授。臂。膊。と。号。し。て。
 僕。小。又。一。人。の。漢。子。あり。此。人。の。初。ち。蔡。福。が。今。身。蔡。慶。と。云。老。之。
 彈。名。を。一。技。苑。と。り。以。時。蔡。福。蔡。慶。に。對。し。て。云。ら。る。汝。速。に
 以。罪。人。と。牢。中。に。入。垂。下。し。我。の。兄。弟。不。回。て。あ。ら。ん。と。て。已。小。牢
 門。と。出。て。二。十。步。を。り。馳。る。如。に。浪。子。燕。喜。を。に。盤。を。携。て。走。來。り。
 別。蔡。福。を。救。し。て。汝。を。流。し。ら。れ。ば。蔡。福。回。て。云。汝。の。何。れ。流。漢。す。

有り。又百両の銀いと易し。今持合せいと。刑を乞ふて。又
百両銀とよ。蔡福銀を収めて。去る。汝明日来て。盧員外が尻
せ見。又とて。遂に別れて。甲り。李のけ。と。大に。び。び。
酒と飲。一。と。蔡福の。甲り。一人の。客。あり。て。
前級。蔡に。と。と。蔡福。これ。迎へて。客の。何れ。の
知。り。あり。の。ひ。め。也。又。姓。大。名。い。ん。彼。人。善。て。我。殺。て。姓。名。と
報。だ。ん。に。前。級。必。ず。是。と。驚。き。な。り。と。る。れ。素。へ。り。と。滄。州。横。海。船。の
と。も。て。姓。の。蔡。名。い。を。と。号。し。大。周。宣。帝。の。末。孫。あり。し。う。た。不。孝
ふ。し。て。罪。を。犯。し。今。の。流。落。て。梁山。泊。ふ。わ。り。以。後。宋。政。の。命
と。兼。て。盧。員。外。が。消息。と。探。せ。ん。が。為。己。に。け。知。れ。あ。り。る。に。豊。料。ん
や。盧。員。外。の。淫。婦。と。奸。夫。と。の。計。り。て。無。実。の。罪。に。陥。され。入。牢。し。し。り

う。ば。盧。俊。義。が。一。令。の。勢。の。如。く。初。て。前。級。の。子。に。ゆ。り。故。に。素。死。と。控。て。去
宅。ふ。り。ぬ。敢。て。け。事。と。昔。の。前。級。り。盧。員。外。が。一。令。と。救。ひ。わ。り。
け。怒。と。地。と。等。し。ふ。し。て。一。山。の。後。蔡。福。これ。と。あ。れ。は。は。は。あ。万。一。盧
員。外。終。に。殺。さ。る。の。後。あ。ら。ん。山。陳。の。人。も。そ。く。来。て。水。系。城。と。攻
落。し。老。少。の。ち。あ。く。敢。て。斬。り。水。系。城。の。人。種。と。殺。す。也。前。級
は。去。の。大。丈。夫。と。を。破。及。ぬ。れ。我。等。が。公。庭。と。蔡。し。一。見。高。度。の。乳
物。と。黄金。一。子。あ。と。持。来。せ。り。又。素。と。捉。へ。ん。と。欺。し。わ。り。宋。迷
捉。へ。素。お。し。も。悔。な。し。と。存。養。た。く。中。の。蔡。福。を。と。破。て。心。中。に
と。と。怕。れ。驚。く。返。答。ふ。も。及。ば。ぬ。し。と。躊。躇。する。を。り。り。宋。を。又。大
丈。夫。の。幸。と。な。さん。に。何。ぞ。躊。躇。する。と。の。わ。らん。や。須。らく。あ。く。一。変。し
史。蔡。福。これ。と。破。て。豪。傑。先。と。退。き。ぬ。我。自。ら。而。存。あり。と。云。ら。ん。が。

宋を毛を謝して云。帝級既承かくのどく。亦く大恩を報せざる事
 感激して。門外小徒せし後人を呼んで一千両の黄金を五出。これと
 葉福小与へて云。乃の帝級先試金と收め。於吳日。葉福謝す。七
 とて。遂小別れと告て。門外に馳出り。彼後人の別ち。神乃を係戴
 宗之。扱葉福の以消息。以時て。時味して。変せ。再び牢中。申來て。
 今。葉慶小。以事と具に告い。と。商強せしに。葉慶云。と
 兄の處に。去る事と。改。以。申小。何れ。今。是らの小事と。時味し
 申小。既に一千両の金子と。送り。上。我。長兄と。修に。以。金と。以て。
 上下の。收人へ。結格と。送る。梁中書張孔目。於て。皆利を。貪る。位
 有り。以。結格と。均ひ。必。定。盧俊義。が。命と。助け。流罪。小。を。改。以。せん。
 我。嘗。が。有。いと。金。ふ。して。梁山泊の。豪傑。是。を。收。ぞん。且。昔。に。人

情。と。有。及。理。之。途。中。小。於。て。盧俊義。と。殺。せ。去。る。是。ハ。又。我。嘗。の
 形。を。知。る。ね。バ。わ。も。妨。む。と。理。と。究。て。了。り。葉。福。是。を。以。て。大
 小。悦。び。汝。が。云。ぬ。我。を。合。つ。と。て。且。盧。俊。義。小。を。一。く。憐。愍。と。加。
 朝夕。酒。食。と。与。へ。食。し。め。暗。小。梁山泊。若。作。と。盧。俊。義。小。告。知。せ。
 遂。小。子。女。の。金。と。分。て。梁。中。書。張。孔。目。并。に。依。後。人。に。寄。り。結。格。と
 送。り。事。を。宣。し。く。潤。へ。り。去。か。ど。に。李。忠。と。登。日。葉。福。が。都。に。出。て。盧
 俊。義。が。消息。と。求。め。り。小。今。牙。葉。慶。小。家。に。わ。り。て。送。り。ハ。我
 兄。牙。盧。俊。義。と。殺。さんと。告。り。た。れ。在。梁。中。書。是。と。先。し。内。の。以。て。
 人。と。附。て。し。く。め。申。小。我。嘗。是。と。殺。せ。と。能。は。足。下。自。ら。馳。て
 梁。中。書。に。結。格。と。送。り。申。小。梁。中。書。は。義。引。わ。り。た。我。嘗
 子。遂。小。以。下。して。被。を。害。す。べ。と。突。し。申。小。乃。に。李。忠。以。て。

て実りやと思ひらん。所日人々を教て梁中書一絶格と送りし。梁中書云々牢中にて罪人と殺さん。前級が干る所有り。我小於て何の益りありん。然れども我於商級とてさる。先是て受るとして絶格と改めり。こそ貪欲なれ張孔目も又李固が絶格と送りし。公中いふせん。時際しり。必に蔡福をねて。若干の金子と梁中書と張孔目とを送りし。近くに送りし。改めり。張孔目とて。張孔目来て。梁中書小まゝとて。盧俊義が事。急に改めり。可らんと告りし。梁中書改めり。王と改めり。張孔目が云。盧俊義を梁山泊小敷月運出す。久々。系扱れて。山際に入りし。とられ。未だ通日せし。とて。一に控扱もわら。只に十枝策て三千里外に流し。公の改めり。相公の事。とて。

いんより。梁中書見せ。張孔目とて。改て明け。さうば流罪小改めり。とて。蔡福小命。て。盧俊義を引出させ。列に十枝策て。面に金印を刺。即時に頸扱と扱て。沙門島と云。知小死流。流。お。友人の下友。董超。薛霸とて。系東系用封府の下友。あて。あられ。一年。林冲を監押して。塗州に教。時。太尉が命を。林冲を殺さんと。思り。知小。魯智深に。妨られ。孫小。林冲を殺さん。遠くの。梁中書被友人。高太尉。これと。思んて。流し。梁中書。命を。盧俊義を。監押す。已に。願前を。退ひ。後。知小。李固。事を。大。小。暗に。友人の下友を。系。居の内。

小指き入れて。種々懇に款待りければ。董超。薛霸これと謝して云
 客ハ何れ我等と款待りや。李忠が云我ハ一つの事と云ふ
 頼んと欲以我仇人盧俊義今沙門島に流るより。めて支公は
 を送りや小と咬し。お今胡より。は知ふ。西に支公と待待し。支公
 弟及申小放。盧俊義を殺し。なり。我ま。以恩を報むべし。
 是も先高産の礼物なりと。八十支の銀を五出し。て友人小友へ
 引れば友人の下友られ。良久。沈吟し。遂に銀を
 見て。歎心生じ。於て。飲掌し。りり。李忠大。小。放。で。云。我。を。恩
 と。高。客。に。わ。は。孫。被。を。殺。して。回。り。な。ら。ば。多。く。金。銀。を。送。り。さ。ん
 と。て。已。に。約。強。し。り。し。く。友人の下友。小。者。脱。して。菜。店。を。出。再
 び。盧。俊。義。を。拖。て。出。り。り。盧。俊。義。友人の者。小。對。して。云。り。る。我。已

には十杖策うられて。全身持たれ。今日の發見。叶かま。明日小延
 引し。小。も。ん。や。薛。霸。怒。て。云。汝。自。口。を。突。し。我。ら。友。人。不。喜。ぶ。也。
 汝。が。こ。の。劫。賣。の。囚。人。小。五。著。り。六。十。餘。里。の。路。を。馳。て。沙。門。島。小
 頼んとす。に。何。ぞ。優。小。日。を。延。さん。や。討。更。汝。が。子。中。に。只。一。錢。也。も
 携。せ。て。何。ぞ。報。む。ふ。り。の。事。と。云。や。と。て。大。小。恥。し。め。あ。ひ。ひ。罵。り
 め。ひ。ひ。笑。ひ。し。く。盧。俊。義。於。悲。ん。で。云。り。る。我。ハ。無。失。の。罪。小。指
 する。志。な。る。小。少。し。の。憐。を。盡。め。人。と。未。ど。云。も。孫。超。さ。る。小。董。超。大。小
 怒。て。云。汝。は。間。家。者。た。り。し。時。ハ。一。毛。と。ぶ。あ。も。抜。ず。して。今日。天。の
 罰。を。蒙。り。尚。これ。を。曉。さ。ぬ。こ。そ。怒。る。れ。と。て。再。三。價。償。して。道。以
 ち。去。る。も。盧。俊。義。心。小。怒。り。と。り。其。敢。言。ば。遂。に。隨。り。十。餘。里。斗
 り。り。に。天色。漸。に。晚。小。向。と。後。友人の下友。は。知。に。旅。宿。を。求。め。て

馳やりるが。盧俊義ろしゆんぎを牛うるのどく使つかひられば。盧俊義ろしゆんぎをこ疲つかれり。その
 疾はやに更さらの時分ときにあ人ひとの下友げをあ記おぼして旅布ふをあけて一いっ向きやう盧俊義ろしゆんぎを
 赶おりせぬれば。盧俊義ろしゆんぎハ腿ひざ酸いん脚あし軟やわて。一いっ歩ぽもをむと能あたらず。筋すぢも
 すれば後不あ殿てんれ。あの下げ友ともにあれるハいともあれなる形勢かたちニ。
 己おのに一日いち董超とうしやう薛霸せつぱハ林はやしの内小せう入いりて暫しばく睡んと喝ありらるが。盧俊義ろしゆんぎ
 義ぎハ逃にるものあれんと疑ひした。盧俊義ろしゆんぎガ云い我われ被ひつと生なじ
 けり也。逃にれんれど。况いや渾身み疲つかれ一歩いっ歩ぽと歩ゆも苦くしさに
 豈あらう逃にれんや。只ただ心こころを安んど睡ねり。あのと云らるハ。薛霸せつぱガ云い汝なんぢガ
 言ことを後依よりがじ我先ま汝なんぢを絆て去後のち杖さく歇んとて於て腰小
 着きる索とれて。盧俊義ろしゆんぎと松の樹小せう拥おり着しうどもも盧俊義ろしゆんぎ
 うりて。左ひだり右みぎのともいをさりり。薛霸せつぱ暗くらに董超小せう對たいして汝ハ林はやしの

介すけに出いてたと窺ひ。美人みのあるとわらぶ。咳せき嗽せきとおもとう。又董超とうしやう
 うと汝なんぢハ只ただ逃にれんと下れべしと林はやしの外出いりれを薛霸ハ指と卷
 て盧俊義とをと汝必かならず我われを恨むとさらうれ汝なんぢガ家の於管かん李り再さい
 三さん我われと殺て汝と殺すむらいより。我われらあ人ひと已いとて於おずして今
 汝なんぢと殺すなり。汝なんぢといハ汝門かど島しま小せうありぬもも。後のちハ殺害がいとある
 べとさられを寧なむらぬら。明あ年ねんの今日にちハ汝ハ週年しゅうねんたるる我
 肯かんて考かう花はなとも供とも茶ちや湯とうとも奠もくべととて懐あくも云られば。盧
 俊義しゆんぎ先まとて法はふ然ぜんとて涙なみだと流し。嗚呼あ我われ運うん命めいの拈と根
 へとて於て既と依眼まなこと死と結し。薛霸於おて指と指し
 乃すなはち忽ち大に害く考み。林外そとに笑へれば。董超とうしやうとれと云らるや
 殺ころしぬとて馳はりて入いりぬとらるに。盧俊義ろしゆんぎハいまと殺ころすして薛霸



えんせの やとあつ
 燕吉 前と故
 うしんぎ 危難と救
 盧俊義 救す



自ら地上小倒きて坐し董超奇怪のこに思ひ薛霸が箭小倚て
 よくうれは薛霸口中小血を吐胸の上に一筋の箭と交り射りたる。
 董超大小談さこいふと慌るぬ小東北の方の樹の枝小一人
 の漢子跨て立るが弓小矢と搭て波月のごとく引緊箭盡差ふ
 まと咄て漂と放らる小董超が喉に中一ふ忽ち力を
 翻して地上に倒れりは時漢子樹の枝より跳下り雲に盧員外
 が箭よみて樹小捆りし索と砍解一向地小ひれ伏て哭りて憑し
 ぬ。盧俊義已に眼を閉じは男とぞり小刺浪子燕喜く一ふ。
 盧俊義俯りに収てこけ髪中やて汝に遇らるやと疑ひるを
 知りてぞええらる。燕喜泪と拭て云らる。索の如く小束小立ては
 人の筋縛と窺ひるに李固密小はあ下友と結て。菜店の肉小入

めるゆゑいふとぬ毛ハ主人と害せんと思つらるりと推察し。今朝老早
 此林の内小躲れて待候ひし如に果して案小差ざりし案已に此
 友人と射殺せし上の相公先んをあんト久とておはすは悲し
 孫めりりは時盧俊義燕喜不對して云らるは汝今我を救ひと又其。
 友人の下友と殺せし上の又此事と添ていふくを料なるに今何れ不
 逃去て刃命と免せんや燕喜がいづく相公かく禍と憂らるるを恐て
 宋公明がかせし訊るれば。唯梁山泊小上ては難と避け更は休取に
 行む。必竟禍と免れ難うん。盧俊義が云我もたこそ思ふも。捧
 痰發し皮肉破れしゆゑ強と強人ともあぞ難し。我運命何ぞかく
 のごとく衰へぬやとも又も憂と懼しるに燕喜が云事已にこれなり。
 りほくすらすとわくとも又も難に遭らるん去来来背たりて死ねばと

遂小盧俊義と并小撥。おちりに梁山泊と聲で馳りたる。撥十匹又里小
玉て。おちり小撥力殺れ衰へてま正并負難うし。一射の柔店と尋
祿増くこくに懸ひりり

○法場と却して石秀樓と野

形る船にさ物の旅人た。追く來て浮る。林の内おお人の下友射
殺されたる。今りや殺されたるとえて。身冷うう。びとや。里正
を破て大お愕然。子速人を馳て見すれば。果してお人の下友射殺
されてわろ。若り。所時大泉府にけ。と。梁中書。是と。破
おざ人を。改。小殺され。董超薛霸お人。と。報。られ。ば。
梁中書日と。限。て。殺。し。る。と。投。せ。る。に。張。の。友。軍。を。強。捕。し。て
云。り。董。超。薛。霸。と。射。る。と。必。定。盧。員。外。が。お。人。燕。喜。ふ。て。も。ら。る。べ

さ小急に追蒐活捉べ。と。然て二百餘人。お分として。追り。近
々近隣。大お強。ざり。又。盧員外。へ。持。獲。奔。し。て。お。と。り。を。然。り。尚。柔
店。の。内。に。在。て。休。息。し。て。居。り。る。お。に。柔。店。の。と。は。何。法。や。破。て。大。お
張。さ。遂。に。里。正。が。お。小。玉。を。暗。に。お。見。え。殺。店。に。お。人。の。漢。子。休。息。て
を。り。る。が。い。う。お。も。躑。躑。あ。り。げ。に。見。え。ひ。と。や。に。若。く。は。里。正。又。軍。友。お
に。つ。げ。ん。と。て。茶。店。の。わ。り。を。引。て。馳。か。り。お。浪。子。燕。喜。の。麻。兔。の
お。と。射。て。お。人。に。を。せ。ん。と。思。ひ。已。に。弓。箭。を。提。て。お。外。に。お。り。る。に。村
中。村。お。大。に。強。さ。し。る。が。替。く。本。蔭。に。躲。れ。て。お。ひ。そ。り。お。小。玉。約。莫。武
百。餘。人。の。友。軍。を。盧。俊。義。と。囚。車。に。載。て。提。り。ら。れ。ば。燕。喜。こ。れ。と。見。て。
大。お。悲。し。い。お。助。け。ん。と。あ。り。し。る。に。軍。緊。と。お。さ。り。ら。れ。ば。又。心
中。に。お。た。げ。お。し。り。て。馳。出。し。る。を。強。う。は。大。お。勢。の。者。お。提。り。ら。る。べ。と。あ。り

わづらふと人と救んとする人あり。わづらふと先はと後れて梁山泊へ
 乃ち後へ。宋公明と頼む。主人の命を救ふんとす。夜二更の
 時分と後徑と馳り。疲れて務む。林の中に入
 ち。小目と睨して。倍憂へ。懼し。乃ち此に喜有。歩りに噪れ
 べ。燕まふ。小鳥ふ。我今。汝も。て。餓小。若も。先。彼。喜有。と
 射て。食せんと。馬り。唯一。筋の。箸と。ゆし。と。披きて。射。と。打。格へ
 響く。喜有。と。帯。独。拽て。漂と。放ち。り。に。多。集。喜有。が。尾。小。中。て。喜
 有。ハ。山。坡。の。下。に。飛。去。る。燕。ま。後。を。慕。て。追。行。は。彼。と。奪。ひ。らん。其
 喜有。ハ。更。に。え。ざ。り。り。り。如。に。女。人。の。旅。客。遙。對。面。より。馬。り。し
 だ。燕。ま。これ。ぞ。と。我。今。汝。費。不。足。と。梁山。泊。も。取。り。て。く。
 何。ぞ。彼。等。女。人。と。踢。倒。して。包袱。包。を。奪。え。ざ。らん。や。と。時。不

衣の袖を巻起て。休居る。如に。彼。女。人。の。旅。客。と。や。近。く。と。見。り
 六。燕。ま。御。と。危。せ。く。後。る。漢。子。と。一。踢。に。踢。倒。し。る。如。に。前。る
 漢。子。こ。れ。を。見。て。大。小。驚。り。意。に。御。と。卷。て。燕。ま。が。小。腹。を。踢。り
 一。と。燕。ま。踢。ら。れ。て。何。と。地。上。小。倒。れ。り。以。時。彼。踢。倒。され。る
 漢。子。扒。強。て。燕。青。と。踏。著。大。小。驚。り。罵。て。云。る。ハ。汝。淫。賊。い。う。ん。ぞ
 我。と。湯。さ。り。ら。や。と。已。に。刀。を。抜。て。殺。え。ん。と。し。り。し。ハ。燕。ま。大。小
 歎。ト。て。云。我。今。殺。され。ん。命。ハ。一。毛。より。も。難。怪。く。思。ふ。と。我。死。せ。り
 云。る。ハ。汝。ハ。梁山。泊。へ。去。行。と。通。ト。て。主人。の。難。と。救。らん。や。と。未。だ
 云。も。罷。ば。して。後。と。玉。と。連。糸。り。り。彼。漢。子。は。云。と。時。て。回。り。ハ。汝。梁
 山。泊。に。い。ら。る。消息。と。通。せ。ん。と。欲。ふ。や。燕。ま。が。云。汝。益。の。一。錢。同。ん
 より。あ。く。我。と。害。せ。よ。と。と。怖。く。氣。及。い。わ。る。り。り。被。茶。有。漢。子。燕

行隔々并置事三十一

まが身上に花を刺し、さうして不馬思ひ出、汝ハリ、盧俊義と云
 人の教人、燕喜と云ふ人、云ふハハ、乃ハ、燕喜を呼んで思ひ、汝ハ
 に我を認める上を定て、友府へぞ引渡すべしに、至人と一、如小殺され
 かりは、汝ハ、死んより、大に強き、わとして、刑苦て、云々の、我を
 多、盧員外が、教人、浪子、燕喜と云ふ人、至人、教人、難小、遇て、近く
 殺されんとする、我、今、梁山泊に、馳て、宋公明と、教人、何、至人の、一
 命と、救んと、思ひ、却て、汝に、扱れ、ぬる、も、運の、極め、と思ふ、さう、あ
 友府に、送て、恩賞と、汝ハ、秋毫も、損わ、びと、ぞ、や、り、る、あ、人の
 旅、あ、これ、と、呼んで、哈々と、歩、笑ひ、我、等、り、あ、く、足下と、殺、し、る、は、
 後悔と、こそ、な、ん、べ、さ、ふ、足下ハ、浪子、燕喜、を、め、り、し、よ、我、ハ、あ、人の、者
 と、作、り、思ひ、い、れ、乃、是、梁山泊の、取、扱、汝、と、賜、さ、る、病、買、索、揚、雄

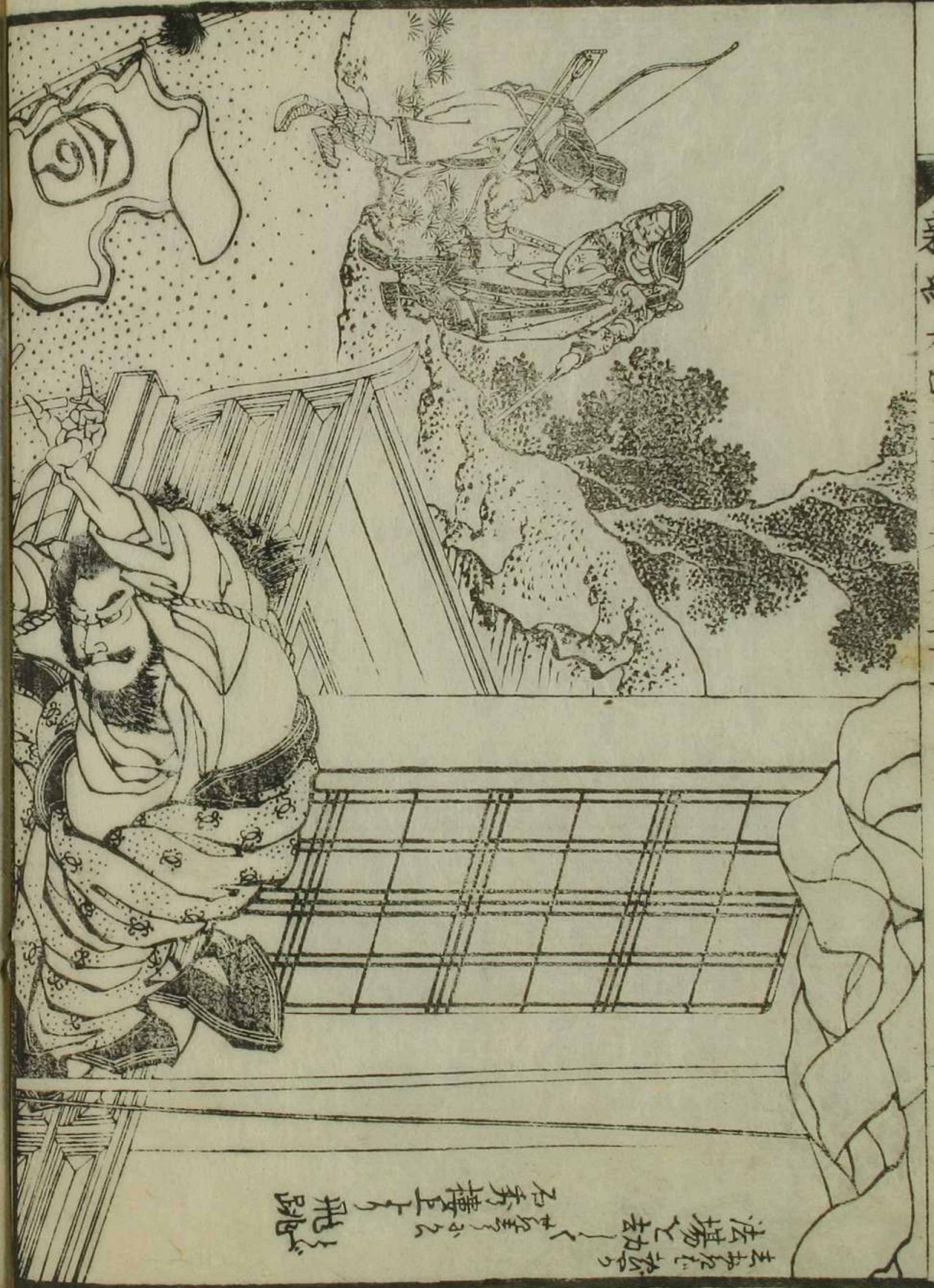
汝小賜られ、さうハ、拚命、三、房、石、秀、之、我、ハ、あ、人、今、宋公明の、命令、を、奉
 て、小、系、に、馳、速、に、盧員外、の、安、否、を、探、聴、人、と、欲、に、足下、あ、く、員外
 の、消息、を、得、に、報、じ、と、燕喜、を、呼んで、大、小、収、び、盧員外、が、難、に、遭
 たる、始、終、の、事、一、一、体、細、に、察、り、し、る、揚、雄、が、云、既に、汝、の、ぞ、く、ん、ば
 我、を、見、ん、燕喜、と、共に、梁山泊、小、四、り、宋公明、小、次、を、告、べ、石、秀、ハ
 独、小、系、滅、小、馳、て、消息、を、伺、ふ、べ、し、秀、が、云、足下、あ、人、ハ、一、刻、も、差
 連、夜、小、馳、回、り、又、我、ハ、自、り、小、系、城、小、入、り、盧員外、の、執、務、を、窺、ん
 と、欲、す、さ、う、し、揚、雄、遂、に、燕喜、を、引、き、梁山泊、小、立、四、り、宋
 公、明、を、見、ん、さ、う、の、如、に、燕喜、を、具、に、盧俊義、が、事、を、告、る、が、宋、江、は、呼、び、
 大、小、孩、さ、子、速、速、汝、を、集、め、評、議、庭、を、あ、り、り、扱、不、秀、は、只、独、り
 小、系、の、城、外、に、あ、り、り、た、天、久、已、に、晚、し、ふ、日、の、城、内、小、入、り、汝、ハ

新編水滸傳卷之五十二

十五

城介に旅籠と求め翌日朝飯後に城内小入て密小勧静せ候ひらる
 和介街の上に出掛群集してそく皆嘆息小過りらる石秀是を
 見く公中に怪しむ街せゆ人小向てかく群集するの何事のゆぞと
 問ふは彼人答て云此亦系に盧俊義と申大冨軍の英雄ありて
 其名を廣く噂へりらる向に梁山泊の下と語りし時彼山疎の政祭
 小生殺れ数日山疎に逗留し一日逃回りし和介友府の交り小依
 て沙門高小流罪小ありらる和介何ありと又及中に於て監押の下友
 友人と殺ししと再び友軍に投られ今日午の上刻は辺小放し斬
 罪にゆえれゆ之は由名見物の犯人お濇ふとぞ語りらる石秀是を
 聞て暗に驚きさ悲に法場の茶にきて寺辺の酒店の樓小より先酒
 肉を赤て飽と食し今もや盧員外と引渡さうんと頭と伸して

待居り知に。未己の刻と過しる街の上大不騒て見挂の人益お加る
 石秀の樓の窓より見えて在るが己に午の刻よとそく小時分果して
 盧俊義と引渡し。尚先二十餘對の陰刀と持しめ若干の友軍
 其左右と拂て馳來り候て盧俊義と法場の内に引居り小。扱彼
 兄弟の常級蔡福蔡慶友人の盧俊義が友に跪て暗小告て云
 員外先に流罪とりして己の我ら兄弟十分に力と尽して是と調へさ
 強れを員外かの友人の下友と殺しぬひぬるに依て今日又斬罪に
 交りせり以上は我ホッカして救ふと強を以強て事と見費と恨
 ぬかこまうれと低云し和介孔目の友呼て云らる。時刻の候ぞとそく
 政と劔とと下知しと語りらる常級蔡福の系末曾子の職と兼しり
 らば候て盧俊義が背に跪て明晃々る刀と同一己に斯よと月を



法場之劫
 石秀樓上、飛跳



一 ぬに不秀刀を揮て樓の窓より跳び大暮勢に呼つて云りは、
 山泊の徳豪傑。まゝ安小ありて待しどとて。恰も奔雷の如く吼て
 群る中に破て入し。暫耐小十餘人と斬倒す。蔡福兄弟大不覺
 遂に盧俊義と弄て逃去り。石秀猛威を振て東に馳去り
 以て散ぐに斬りし。殺入下友八方に逃を揮りまられば
 盧員外が子と携て南と走り行。不秀は系水系の乃を
 織ざりり。或や盧員外を懼し。孫道を往て終いざりし。こ
 破彼に殺をり。以時梁中書。盧員外逃るると呼て大不覺
 所耐小若干の人手と馳り。城の門を閉せ。許多の友軍を
 と呼して。四面八方と捜させり。以時不秀は盧俊義が子と縮て以
 彼不徘徊し居り。ぬに下に入るの勢大不覺。一度に咄と競る

不秀盧俊義を正中に圍んで夫活捉と口々に呼りし。不秀
 勇と奮く働し。遂に大勢小友人を生捕れり。法の友軍は盧
 俊義石秀と人を綁り。於て梁中書の方引渡せし。梁中
 書不秀を見て大不覺。汝奈城何ぞ擅に罪人盧俊義を奪ひ
 去りや。不秀眼と怒し。却と勵し。梁中書を罵て云。汝は乞食
 と罵ひ百姓と害するの奸賊なる。いんど我を恥しむるや。梁山
 泊の宋公明。迫し人ると弄して。汝城と攻破り。汝が既と劔く百
 姓の爲に。一害と除んと欲に。故に我先來て汝小は事と報ふこと
 て。再々忍に。とぞあさり。法の役人を見を呼て。各懸標ぬ。梁中
 書良久し。沈吟し。一。刻蔡福小命とて。先友人と牢中
 に。蔡福の梁山泊に通はせんと思ふ。ぬに。盧俊義不秀を

一取に入。毎日酒食と子へて介抱と加へし。友人を牢中小を置
も若きとるなりし。梁中書は日王太守と捉へる秀がことと強備し。
ふ又石秀小飲れし人を數かに死するま七十八人傷れし。その子
もつと死し。翌日城中城外の志を方ぐ。小書簡の落し。あつて
拾ひてこれとるに。書簡の内を宛名もあく。その文を奇異なりし
久。密に弄。重んもいかるればと。そく皆梁中書に呈し。梁中書は書
簡をみるに。その文小曰

梁山泊義士宋江仰示大名府布告天下。今為大宋
朝濫官當道。汚吏專權。歐死良民。塗炭萬姓。北京盧
俊義乃豪傑之士。今者啓請上山。一同替天行道。特
令石秀先來報知。不期俱被擒捉。如是存得二人。性

命獻出淫婦奸夫。吾無侵擾。倘若傷羽翼。屈壞股肱。
拔塞興兵。同心雪恨。人兵到處。玉石俱焚。天地咸扶。
鬼神共佑。勦除奸詐。殄滅愚頑。談笑入城。並無輕恕。
義夫節婦。孝子順孫。好義良民。清慎官吏。切勿驚惶。
各安職業。諭衆知悉。

梁中書は書簡を見早て大に驚き。早速王太守と呼んで。以て
いふと高議し。乃る太守の系來者儒なる人なり。ればとて。少く
心中に憂ひ。助ち梁中書小若て云。梁山泊の高傑。人各万丈不商
の勇めらる。朝廷の天を。尚且敬する。と能く。いふ人。以て小
一ツを守て。豈く彼に對し。幾らんや。彼も大勢と執し。果
だ強ひ。朝廷より援を。馳せ。申す。其間小の合。り。城を落

されんひつせんと必死ひつせんするも唐州たうしゅうの蔡九知府さいきゅうちふ、吉州城きちゅうじょうの慕容知府ぼくしゅうちふ、冀州ぎしゅうの賀太守かたうしゅうが近側眼きんがわなのあつらするんおのれとさうしゅう、以時いじ、凌梅りやうばいも益ありしえきありし、素心そしん、とみく、あふれ、先づまづ、復友人ふくゆうじんが斬罪ざんざいを逆さかし、表うへと朝廷てうていに書かきし、蔡太師さいたいし、小聖せうせいして、成敗せいばいの一半具いちぱんぐし、素小松そせうしょうへ、後人ごうじんを、と怪あやし、城外げいがいに疎それせ、防ぼうぶと、梁りやう、小使せうしへ、強敵きやうてきを、探たん、拒きよ、け、方に保たもて、は、城じやうを攻せべし、に、何なにと、必ひつく、と、これと、退ひき、れ、ん、や、好このく、三思さんしと、加くわ、へ、く、と、理り、を、見み、して、ぞ、り、り、の、梁中書りやうちゅうしやう、是こゝ、と、以も、つ、て、可か、なり、と、回くわい、し、て、蔡福さいふく、蔡慶さいけい、に、命めい、して、云い、盧俊義ろしゆんぎ、石秀せきしゆ、二人ふたりの、城じやう、の、尋たづ、ね、の、囚人しゆじん、と、曰いは、し、て、汝に、兄あに、を、囚し、く、ち、て、保たも、つ、と、な、れ、先まづ、ハ、汝に、に、許ゆる、ぶ、と、命めい、し、し、て、蔡福さいふく、兄あに、を、囚し、つ、て、暗くら、に、収い、ひ、ぬ、れ、牢中らうちゅう、に、在あ、り、て、復友人ふくゆうじん、の、志こゝろ、と、懇こゝろ、不あ、慮い、り、深こゝろ、く、憐あは、れ、む、と、垂た、

小せう、り、盧俊義ろしゆんぎ、石秀せきしゆ、早はや、見み、い、ん、次つぎ、卷まき、と、見み、て、明あ、ら、う、ん、
 傷者やうしや、い、も、く、以も、書かき、李り、素そ、を、人ひと、と、殺ころ、さん、と、そ、前まへ、級きふ、小せう、報ほう、と、送おく、つ、て、殺ころ、む、
 六百ろくひやく、支し、の、報ほう、と、幸さい、ひ、指さし、合あ、せ、ん、れ、ば、と、出い、で、て、派は、を、と、懐か、く、む、で、六百ろくひやく、支し、の、
 銀ぎん、懐か、中ちゆう、に、於お、ち、に、包つつ、み、て、携たづ、ね、る、と、目方めがた、と、い、ひ、事こと、も、あ、り、と、素そ、心しん、と、く、と、包つつ、み、
 正ただ、成なり、べ、く、と、云い、ふ

新編水滸畫傳卷之五拾貳年

